

釧路南ロータリークラブ会報

第6回 例会報告 2023.9.1 通算1941回

・点 鐘 福井克美副会長

・誕生祝

石井 昌宏会員 S54. 9. 6 (44歳)

・入会記念祝

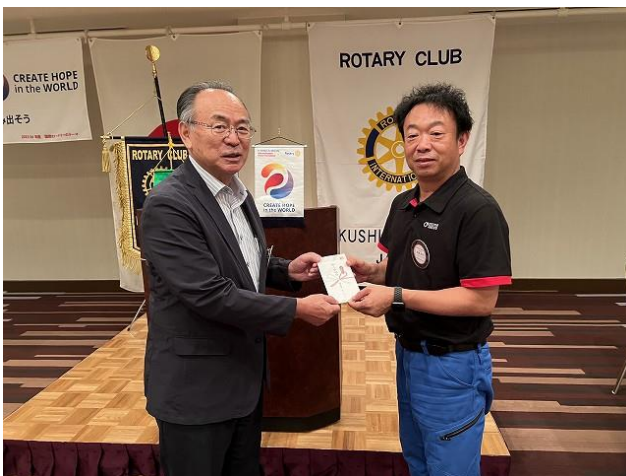


・会長挨拶 代読福井副会長



皆さんこんにちは。

まずは本日、札幌出張のために例会をお休みすることをお許してください。言い訳ではありませんが本年度の活動計画書では今週は9月2日、土曜日がスポーツ例会の予定でしたので1日、金曜日に札幌出張しても土曜日の夜には戻れるという事出張の予定を組んでいたのですがプログラムの関係で例会が1日、金曜日に変更になったのでお休みとなります。さて8月18日にヒヤガーデン会場で行われました夏祭り例会、南ロータリークラブ会員がテレビ出演というハプニングもあり、楽しくメンバーが交流出来たのではないかと思います。また、南ロータリークラブの事業ではありませんが8月25日に南ロータリークラブの会員数名が発起人となり、開催されました福井克美会員の黄綬褒章受賞の祝賀会、多くの皆様に参加とお祝いの言葉を頂いたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



夏祭り例会も祝賀会も釧路には珍しい暑さの中ではありましたが滞りなく開催出来たこと参加されたメンバー皆様のご協力があったことだと思います。本年度はこのような夜の集まりも多々、予定をしております。これからも皆様の参加とご協力をお願いします。本日の例会のプログラムは「基本的教育と識字率向上月間に因んで」となっております。

「基本的教育と識字率向上月間」を調べてみると地域の識字水準がその地域の生活水準に直結するとの観点から、「世界中で識字能力の大切さを強調する」、「ロータリー独自の識字率向上プログラムを開発する」など、ロータリアンの意識を向上する月間と書いてありますがこれだけでは意味がわかりづらいと思います。

簡単に言うと世界にはいまだ 7億 8100 万人の読み書きのできない人たちがおられ、特に女性はその中の 2/3 を占めていると言われております。世界における読み書きのできない人たちの問題を再認識するとともに、識字率向上に関して、私たちロータリアンの意識を深める例会になればと思います。クラブ運営委員会、工藤ゆかり委員長、よろしくお祈りいたします。本日 1 日、よろしくお祈りいたします。

・幹事報告



- * 釧路ロータリークラブ様・釧路北ロータリークラブ様・釧路ベイロータリークラブ様・釧路東ロータリークラブ様・釧路西ロータリークラブ様・浜中ロータリークラブ様より、『9月プログラムのご案内』が届いております。
- * RI 日本事務局より、『財団室 NEWS』が届いております。
- * 『ハイライトよねやま 第 281 号』が届いております。
- * 本日例会終了後、理事会がございます。理事者の方は、宜しくお祈り致します。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金
石井 昌宏会員 誕生祝として

・本日のプログラム

「基本的教育と識字率向上月間に因んで」

担当 クラブ運営委員会

◆工藤ゆかりクラブ運営委員長



「基本的教育と識字率向上」とは？

世界には子どもたちが基本的な教育を受けられず、成人が十分に読み書きできない国や地域があります。そうした地域で基本的教育を提供し、識字率を上げれば、そのほかの諸問題の解決（貧困の削減、健康状態の改善、地域社会と経済の発展、平和構築など）の糸口をつかむことができます。「基本的教育と識字率向上」は、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています。

基本的教育・識字が重視される理由

すべての女性が初等教育を修了すれば、妊婦の死亡率は66%減少する。

読み書きのできる母親を持つ子どもは、読み書きのできない母親の子と比べて、5歳以上まで生き延びる確率が50%高い。

低所得国で全生徒が読み書きを習得した場合、1億7,100万人が貧困から抜け出すことができる。これは全世界の貧困の12%に相当する。世界的に、教育・識字の分野では進展が見られています。

2014年国連ミレニアム開発目標の報告書によると、成人と青少年の識字率は上がっており、男女差も縮まっています。しかし、まだ多くの面で課題が残されています。

世界で5,800万人の子どもが学校に通っていない
4年間の初等教育を受けた後も読み書きのできない子どもが2億5,000万人いる

7億8,100万人の成人が読み書きできない

地域社会のニーズを調べる

プロジェクトを始める前に、まず地域社会の「ニーズ」（何が必要か）と「リソース」（何を地元で調達できるか）を確認することが大切です。これを調べるために、地元の人と協力して、徹底した地域調査を行いましょう。調査の段階から地元の人と協力す

れば、適切なニーズが見つけれられるだけでなく、地元の支持やサポートを得た上で、持続可能性の高いプロジェクトを実施できます。調査方法については、ロータリーの出版物「地域調査の方法」をご参照ください。

教育と識字に関する活動では、学校運営者、教員、親・保護者、生徒、文部省や教育委員会の代表者とも協力しましょう。

調査では、「はい」「いいえ」で答えられる質問ではなく、オープンエンド（自由回答式）の質問を投げかけます。物資の支援だけでなく、人びとの能力向上につなげるために次のような質問をしてみましょう。

教員に対して：

「どのようなスキルを伸ばしたいと考えていますか」

「あなたが目指す教育とはどのようなものですか。それを達成するには何が必要ですか」

保護者に対して：

「子どもが成人したらどんな職業についてほしいと思いますか」

「その仕事に就くために、どのようなスキルや教育が必要ですか」

生徒に対して：

「学校のどんなところが好きですか」

「どんな学校になったらいいと思いますか」

プロジェクトに参加したいと望む生徒もいるはずですし、何より、プロジェクトの影響を大きく受けるのは生徒たちです。生徒が何を望んでいるか（または望んでいないか）を把握することがプロジェクト成功の秘訣です。ニーズに加え、リソースも確認しましょう。現地に十分なリソース（人材など）があれば、それをうまく活用することで、外部からの援助をほとんど必要とせずに、地域社会の人たちが

自力で課題を乗り越えられることもあります。リソースを調べる際は、関連分野で既に活動している団体があるかどうかを確認しましょう。そうすることで活動の重複を避け、ロータリーはほかのニーズに取り組むことができます。

地域社会のニーズに応える

基本的教育・識字のニーズがある場合、その多くは以下いずれかのカテゴリーに当てはまるはずです。

- ・ 成人の識字教育が必要
- ・ 子どもたちが学校に通えるよう支援が必要
- ・ 教育効果を高める支援が必要
- ・ 教材が必要

調査の結果、基本的教育と識字のニーズがないとわかったとしても、調査は決して無駄ではありません。むしろ、不必要な活動に時間やリソースを費やさずに済み、ほかのニーズが見つかることもあるでしょう。続くページでは、各状況を詳しく分析し、それに対する持続可能な解決策と事例研究をご紹介します。

成人の識字教育

日本人にとって読み書きは呼吸と同じくらい自然な行為に思えても、世界には教育の機会に恵まれない人びとが大勢います。こうした人びとは、仕事を得るために履歴書を書いたり、子どもの通信簿を読んだり、処方薬の説明書を読んだりすることができません。

2000年以來、読み書きのできない成人の数は減少しつつあります。しかし、世界の非識字人口は7億8,100万人（世界の成人人口の15%）、その3分の2近くが女性となっています。

❓ 考えてみよう

現地の成人識字率はどのくらいか。

成人識字率の内訳を見ると、性別、民族、所得、その他の要因による格差があるか。その場合、最も識字率が低いのはどのような人びとか。

読み書き習得の妨げとなる要因は何か。

人びとは読み書きの習得で何が変わることを期待しているか（例：もっとよい仕事に就く、母語ではない公用語に慣れる、家計簿をつけて預金を増やす、子どもの宿題を手伝う、等）。

成人学習者の場合、どのようなニーズ、関心、学習歴を持つ人びとか。（子どもではなく）成人にとって効果的な学習方法は何か（小中学校で標準的な教育方法も、成人には適さない場合がある）。

+ 戦略：母語とは異なる公用語を成人に教える

先住民や移民など、少数派言語を話す人びとは識字率が低い傾向にあります。こうした人びとは母語による読み書きができて、地元での公用語を生活や仕事に必要なレベルで使えません。

例えば、台湾の台中市では、複数のロータリークラブが力を合わせ、中国、ベトナム、インドネシア、タイからの移民女性に読み書きの授業を行っています。授業では、友人や隣人とコミュニケーションを取るための実用的なスキルを重視し、修了後にスピーチコンテストを行って、スキル実践の場を提供しています。

成人に第二言語を教える際の留意点：

- ・ 日常生活を題材とする
- ・ 参加型の学習を取り入れる（会話を通じて新しい言葉を学ぶなど）
- ・ 授業での指示や説明には、学習者の母語を使う
- ・ 実用的な知識も得られるようにする
- ・ 学習者にとって都合のよい時間と場所を選ぶ

- ・ 先住民や移民のための支援団体と協力する

⊕ 戦略：機能的リテラシーに焦点を当てる

社会生活に必要な機能的リテラシーを身につければ、ほかのスキルを学んで家族の生活の質を向上させることができ、子どもの教育にも熱心になります。成人学習者がこうした成果を理解していれば、勉強のモチベーションもさらに高まります。

学校に通っていない子ども

1990 年以来、学校に通っていない子どもの数は全世界で 1 億 200 万人から 5,800 万人に半減しました。しかし、近年はあまり進展がみられず 8、2011 年に小学校へ入学した 1 億 3,700 万人のうち、3,400 万人（約 25 パーセント）は中退の可能性が高いといわれています。子どもたちが学校に通えない主な理由は、貧困、性差別、遠距離通学です。

❓ 考えてみよう

まずは、通学できない理由を調べましょう。よくある理由と解決策は以下の通りです。

通学できない理由	解決策
教育費を払えない(授業料、制服、教科書、文房具など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所得を増やすために親や保護者への職業訓練を行う
子どもが家庭の労働力となっている／子どもが仕事をして収入を得る必要がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い子を預けるための保育園を作る ・ 授業時間を柔軟に設定する
文化的に教育が重視されていない／教育に対して親の理解が足りない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育のメリットを説明する ・ 学校説明会を開く ・ 宗教リーダーや地域リーダーに教育の重要性を強調してもらう(特に女子の教育) ・ PTA組織をつくる
健康問題により通学できない／病気の家族を世話するため通学できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での水・衛生プロジェクトを併せて実施する ・ HIV／エイズやその他の予防可能な疾病について認識向上を図る

⊕ 戦略：女子生徒が学校に通えるようにする

世界的には教育の男女差が縮まっていますが、中東、南・西アジア、サハラ以南アフリカといった地域ではまだ格差が見られます。これらの地域で女子生徒が少ない主な理由は以下の通りです。

- ・ 女性の社会的立場が弱い
 - ・ 経済的理由（交通費・授業料、収入を得るための仕事の手伝い、等）
 - ・ 男性教員が圧倒的に多く、これらの教員は性差別について研修を受けていない
 - ・ 長距離通学のため、安全上の問題がある（性暴力の標的となりやすい）
 - ・ 学校に十分な衛生施設（個別トイレなど）がない
- 教育を受けた女子は健康な生活を送り、将来に十分な収入をもたらす仕事に就くことができます。また、家族計画に基づいて家庭を築き、子どもにより良い医療と教育を提供できます。このように、女子への教育は地域社会全体の発展につながる一方で、女子が男子と同等の教育を受けなかった場合、年間 10 億ドル以上の経済損失があると推定されています。

教育効果を高める

読む力はあらゆる学習の基礎となります。しかし、サハラ以南アフリカ諸国では 5 年間教育を受けても生徒の 40 パーセントが読み書きできません¹⁰。低所得国の子どもたちが基本的な読む力を身につければ、1 億 7,100 万人が貧困から抜け出せると推定されています。これは世界の貧困の 12 パーセントに相当します。

🔍 考えてみよう

どのような資格を持つ人が教員となっているか。

1クラスの生徒数は何人か。

学校には、学校運営者、教員、親・保護者、生徒から成る委員会があるか。

生徒が放課後に参加できる課外活動があるか。

生徒の学習成果が上がらない理由を調べるため、教員、生徒、親・保護者と話す。それぞれ個別に話して、学校が掲げる教育目標は何か、教員が身につけるべきスキルは何かを尋ねる。

教員への研修を行う。国によっては、教職に就くには特定の学位や資格が必要な一方、初等教育のみで教員となれる国・地域もある。質の高い教育が望ましいため、多くの場合、教員は研修に関心をもっている。どのような研修に関心があるか尋ねる。

教員研修プログラムの経験がないクラブや地区は、協力してくれる専門団体を探す。または、地域で評判の高い学校の教員に講師となってもらう。

⊕ 戦略：教員研修を行う

幼児教育

2000年から2011年にかけて、幼稚園に入学した子どもの数は世界で6,000万人増加しました。ある調査によると、先進国と発展途上国のいずれにおいても、幼児教育はその後の学習に良い影響をもたらすことがわかっています。

幼稚園への入学率が増える一方、質の高いカリキュラムを提供するためにまだ多くの課題が残されています。

・ 政府は幼児教育にあまり投資していない。その結果、多くの発展途上国で、幼児教育のカリキュラムや指導要領が整っていない。

- ・ 幼児教育では、文字の識別だけではなく、発音、数字、生活知識、問題解決といった大切な学習事項も教えている。
- ・ 適切な幼児教育により、子どもたちは小学校への入学準備を整えることができる。
- ・ 教員研修とカリキュラム開発は、教育・識字プロジェクトを持続可能なものとするために重要である。
- ・ 教員研修の持続可能性と成果を高めるには、1回限りではなく、長期的な計画が必要。地元で研修の運営担当者を決めるとよい。

小中学校での教育

小中学生の学習成果が上がらない理由の一つに、教員（特に十分な資格を備えた教員）の数が足りないことが挙げられます。また、多すぎる生徒数、教員研修の欠如、暗記に頼った学習も、学友成果の妨げとなります。

国連の持続可能な開発目標では、2030年までに全世界の子どもが無料で公平かつ質の高い小中学校教育を修了できるようにすることをめざしています。すべての子どもに初等教育を提供するには、世界で160万人の教員が必要です（その3分の1はサハラ以南アフリカが必要）。また現職の教員のスキルを伸ばすことも重要な課題です。

教材の提供

教材は学習促進に効果がありますが、多くの学校では教材が不足しています。エチオピアでの研究によると、教科書があった場合、子どもたちの朗読力が格段に向上することがわかっています（1分につき9.6単語増加）。教材だけでは質の高い教育は実現しませんが、学習効果を高めるには教材の使用が必要です。

② 考えてみよう

地元の声に耳を傾ける。関係者と話をして必要とされている教材は何かを調べ、リストを作る。中古図書を寄贈する場合、対象年齢、言語、現地の文化にふさわしい内容であることを確認する。提供する教材が、その学校の教育目標にどのように役立つかを考える。

教材の購入・配布に留まらず、その教材を活用した教育方法の研修も加える。

発展途上国では近年、基本的な教材に加えて、テクノロジーも導入されている。このため、現代的なテクノロジー機器や設備の提供も検討するとよい。ただし、その場合には教員や生徒への研修が必要となる。最も大切なのは、生徒と教員の直接の交わりを通じた学習となる。

基本的な教材・設備の例	現代的なテクノロジー機器・設備の例
黒板	電子ホワイトボード
パソコン	ノート型パソコン
教科書、図書、辞書	タブレット型パソコン
机	多目的に使えるオープンスペース

③ 戦略：プロジェクトを拡張させる

初めて辞書、机、教科書を手にした子どもたちの笑顔からは、大きな達成感が得られるものです。しかし、物資の提供だけでなく、そこから一歩先へ進むにはどうしたらよいのでしょうか？

プロジェクト拡張のアイデア

- ・ 本を寄贈するだけでなく、家族全員を対象とした識字プロジェクトを実施する。家族で一緒に本を読む活動を取り入れ、家族全員の能力向上をめざす。

- ・ 辞書を寄贈し、放課後に作文クラスを追加する。このクラスで辞書の使い方、文章の書き方を教え、年度末に作文コンテストを開く。
- ・ 学校に机やベンチを提供した場合、学習意欲を促す環境づくり、スペースの使い方について教員を研修する。一日中座ったままでは大きな学習効果が得られない場合もある。教員が効果的な学習環境について知ることで、生徒の学習成果向上をめざす。
- ・ 学校にパソコンを寄贈する場合、授業でパソコンの使い方を教える。



・ 次回のプログラム

9月8日（金）12:30～

「地域経済と地域社会発展月間に因んで」

会場 ANA クラウンプラザホテル釧路+WEB

担当：ロータリー財団米山委員会

・ 点 鐘 福井克美副会長

今週の会報担当：木内治彦会員